

土地利用型作物の安定生産(大豆の安定生産技術向上)

～ 雑草退治で収量間差の解消！ ～

活動年次：令和3～4年

石狩農業改良普及センター本所

1 課題設定の背景

現状 対象：漁太地区における中核的農家6戸

- 漁太地域の概況：主業農家※(以下中核農家)へ農地集積が進んでいる。
- 大豆の作付面積：中核農家(6戸)を中心に、大豆の作付面積が増加。
※主業農家：65才未満かつ農業所得を主としている農家。地域の中核。
- 地域の問題：中核農家間の除草技術を中心とした技術レベルの差が大きく、地域内における収量格差の要因となっている。

作付面積の推移(ha)

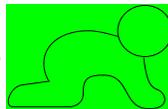
年度	H27	R2
大豆	42.2	56.1

教えたんだけど経営に係わるから…

課題解決に向けて

- 『**除草対策**』を中心に、技術継承の場を形成。
- 栽培技術水準を平準化
☞ 地域内の収量格差の縮小を図る。若手農家

他の家の技術を知りたい！



ベテラン農家

2 活動の経過



草種を調査し対策を相談
(埋没雑草調査の実施)

中耕作業の適正化を支援
(メーカーと連携した現地講習会)



Fax・巡回による栽培支援
(適期は種・土壌処理に関する栽培資料)

普及は
『提案支援型』
の活動を展開

技術を共有する環境作り ➡ **技術の平準化**

3 活動の成果 *****

対象者の意識改革・栽培技術の向上 (優良改善事例)

労働時間の削減



C氏: 11h27min/10a
(R 2. 9. 4)



C氏: 9h23min/10a
(R 3 . 9. 7)

除草時間: **18%減!**

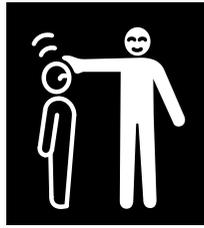
中耕作業の
適期・適正化



雑草の発生
量減少!

手取り作業が
楽になった!

いつもより
丁寧に作業
したよ!



生育量の改善

D氏: 茎長
35cm程度

地区平均
約67cm

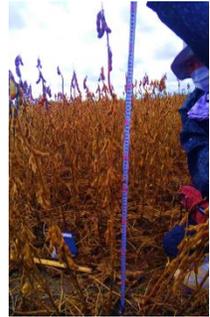


(R 2. 9. 23)



D氏: 茎長
80cm

地区平均
約67cm

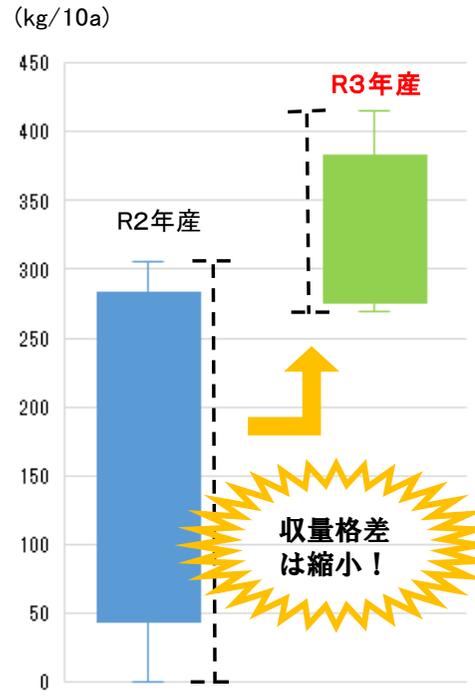


(R 3. 9. 26)

雑草量の減少により収量向上!

農業者名	改善状況		雑草量		収量 R2年産比較 (kg/10a)
	中耕除草 R2	R3	埋没量 本/m ²	残草量	
A	○	→ ○	0	→ 0	+45
B	○	→ ○	0	→ 0	+50
C	x	→ <u>○</u>	<u>139</u>	→ <u>7</u>	<u>+278</u>
D	x	→ <u>○</u>	<u>19</u>	→ <u>7</u>	<u>+211</u>
E	△	→ ○	9	→ 1	+109
F	△	→ ○	9	→ 1	+97

※評価基準 ●適期・適正実施: 2回以上=○、1~2回=△、0回=x



4 今後の活動 *****

- 雑草対策による収量向上の成果を農業者と共有。次年度は、労働時間削減(手取り除草時間)を目標に活動を継続。
- 技術の平準化に向けた手法を関係機関と共有。担い手育成や新規就農者への技術継承等に問題意識のある地域へ情報提供を行う。